

授業概要

心理学において、調査を行う者はもちろん、文献を購読する上でも、統計に関する基本的知識が必要となる。本講義では、心理学で用いられている様々な統計手法のうち、多変量解析の一部(回帰分析・分散分析・因子分析)を紹介するとともに、実習を通じて統計ソフトの基本的な操作方法についても解説する。なお、心理統計に関する基本的知識を習得していることを前提とした講義内容であること、一部内容に実習を含むことから、履修に際しては下記注意事項を必ず確認すること。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	関連を調べる分析手法① 相関係数・ χ^2 乗検定
第3回	関連を調べる分析手法② 回帰分析の考え方
第4回	関連を調べる分析手法③ 重回帰分析の考え方 / 重回帰分析を用いた研究例
第5回	関連を調べる分析手法④ (重)回帰分析に関するデータ解析
第6回	関連を調べる分析手法⑤ (重)回帰分析に関する図表とレポートの作成
第7回	差を調べる分析手法① t 検定(対応あり / 対応なし)
第8回	差を調べる分析手法② 一要因分散分析の考え方
第9回	差を調べる分析手法③ 二要因分散分析の考え方
第10回	差を調べる分析手法④ 一要因分散分析に関するデータ解析
第11回	差を調べる分析手法⑤ 二要因分散分析に関する図表とレポートの作成
第12回	まとめる分析手法① 因子分析の考え方 / 因子分析を用いた研究例
第13回	まとめる分析手法② 因子分析に関するデータ解析
第14回	まとめる分析手法③ 因子分析に関する図表とレポートの作成
第15回	まとめ
第16回	期末課題

※受講者の興味関心や進度に応じて一部変更を行う場合がある。

到達目標

- ①心理学研究において頻繁に用いられる各種統計手法について、その基本的な考え方を理解する。
- ②解析ソフトを利用して基本的な分析を実施し、その結果をまとめることができる。

履修上の注意

- ・「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」を受講済みであり、その内容を十分理解していること。
- ・調査とデータ分析に関する基本的な知識と技能を習得することを目指すため、意欲を持って受講すること。
- ・ワープロソフト(Word)と表計算ソフト(Excel)について、基本的な使い方をマスターしていること。
- ・本講義は実習を多く含むため、大幅な遅刻・早退、その他受講態度に問題がある者は出席とみなさず、退室を求める。
- ・本講義に関連して、心理学に関する調査や実験の協力を依頼する可能性がある。
- ・その他の注意事項について初回の授業時に伝えるため、**初回授業には必ず出席すること。**

予習・復習

【予習】講義開始前に「心理学統計法Ⅰ」の内容を必ず振り返っておくこと。

【復習】多様な分析手法を順次紹介していくため、「どのような時にどの分析を行うか」について、学習後に必ず整理しておくこと。

評価方法

授業への参加状況(約30%)および講義中、複数回提出を求める課題(約70%)により評価を行う。
※ただし、課題の成績にかかわらず、出席回数が3分の2に満たない者の単位認定は行わない。

テキスト

- ・テキストは指定しないが、下記書籍を中心に、適宜参考書を紹介する。
小塩真司(2011). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析(第2版) 東京図書